

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①知的好奇心を刺激し、表現力を伸長する授業を教員・生徒の相互で作上げるため、ICT技術を積極的に取り入れ、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②学校行事を精選し、準備や運営についても効率的な計画を立てるとともに、生徒の主体性を活かした運営を行う。</p> <p>③「見通しをたてる」、「現状を把握する」、「自ら課題解決ができる」ことを、プログラミング教育の3つの柱とし、この3つの能力の育成を目指す。</p>	<p>①ICTを利活用した授業改善を推進する。</p> <p>③各教科や教科横断的な活動を通し、生徒自らが課題を発見し、主体的、対話的な活動と論理的な思考の両立を目指し課題解決を図る授業づくりを推進する。</p>	<p>①One Day Tryで得た成果を発展的に再構築し、継続的な学びを体系化していく。</p> <p>③見通しを持って粘り強く学習に向かうことができる「問い」や自分と他者との意見や考え方の比較検討・判断をする学習活動を創造する。</p>	<p>①ICTを利活用した組織的な授業改善を推進できたか。</p> <p>③生徒が意欲的に取り組む授業づくりを推進できたか。具体的指標として、生徒の知的好奇心が高まり、疑問を持ち、感動、問題を見出す姿が見られたか。</p>	<p>①オンライン授業などこれまでの経験やスキルを活かして学びを継続することができ、また授業改善も推進された。</p> <p>③プログラミング教育を意識した各教科での研修を通して、見通しを持つことのできる授業づくりを目指すことの必要性を職員間で共有することができた。</p>	<p>①今年度から一人一台PCが導入され、順次生徒全員がPC端末を持っている環境となっていくため、PCを有効活用した授業づくりをさらに増やしていく必要がある。</p> <p>③研修会の回数を増加し、計画的な研修を引き続き行う必要がある。また、プログラミング教育を意識した授業づくりを各教科でさらに共有していく必要がある。</p>	<p>○一人一台PCの活用がどうであったか。使うことだけがないか検証をすることが大切である。</p> <p>○私の孫(小学校1年)のプログラミングの教材を見たが、小学校からの時系列で取組を進めていく方法もあると感じた。</p>	<p>①本年度よりすべてのHR教室等に配備した「西湘テレビジョン(液晶プロジェクター)」を活用した授業がかなり浸透している。一人一台PCの有効な活用方法について、さらなる研究が必要である。</p> <p>②総合的な探究の時間や各教科の授業において、プログラミング教育の視点に立つ取組が定着してきた。取組の評価の在り方についても検討が必要である。</p>	<p>①一人一台PCの有効な活用方法について、大学教授を講師とした研修会を実施し、専門的視点からの示唆を得ることで活用の深化を図る。</p> <p>②プログラミング教育についての研修会を充実させ、学校全体としての取組としてさらなる充実を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の定着や規範意識の醸成などの日常生活指導上に関する課題とともに、いじめや問題行動、不登校・薬物乱用など、心や命にかかわる問題に対して適切な対応を行う。</p> <p>②学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。</p>	<p>①指導・支援方針の検討や情報交換の機会を設け、全職員の共通理解のもと、生徒・保護者のニーズを的確に捉え、アプローチする。</p> <p>①SNSの適切な使い方について、生徒に周知していく。</p> <p>②メリハリのある活動を意識し、生徒と十分なコミュニケーションをとり、生徒のニーズを踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。</p>	<p>①SSW、SC、教育相談コーディネーター、養護教諭と連携し、全職員の共通理解のもと課題解決にあたる。</p> <p>①SNSに関して、学年集会・携帯電話教室等で、生徒に自覚を促す。</p> <p>②コロナウィルス感染対策を講じ、「部活動指導ガイドライン」に基づいた適切な活動時間等を設定し、生徒の目的や目標に応じた活動の場を設ける。</p>	<p>①ケース会議や事例検討会議を定期的に行き、生徒が置かれている状況をSSW・SCと積極的に協働することによって把握し、指導することができたか。</p> <p>①SNSに関するトラブルが昨年より減少したか。</p> <p>②部活動アンケートで「目標や練習の目的を意識して、活動している」「部活動と勉強の両立」「部活動の結果が半数を超え、かつ、「できていない」の結果が2割以下となったか。</p>	<p>①ケース会議や事例検討会は必要に応じて開催し、SC、ときにはSSWとも連携し関係職員との情報共有ができ、個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>①SNS関連のトラブルは、依然として増加傾向にある。</p> <p>②2月中旬に実施した「部活動・同好会活動チェックシート」で先の3つの質問項目において、「○(当てはまる)」と「×(当てはまらない)」が目標を達成することができた。</p>	<p>①生徒の状況に応じて、校内での情報共有、SC・SSWとの連携を、さらに積極的かつ、密に行い、生徒理解を深める。</p> <p>①SNS関連のトラブルは、誰にでも身近に起こりうる問題であることを、携帯電話教室や集会等で、生徒に周知していく。</p> <p>②「部活動と学業の両立」で約3割、「活動に満足」で約2割、「△(どちらともいえない)」という回答であったので、全顧問に状況を周知し、今後の活動に生かしていく。</p>	<p>○コロナ禍により厳しい現実を抱えている状況において安心して相談できる大人の存在は大変ありがたい。</p> <p>○SNSに関連して被害者から起こされた民事損害賠償事件が多発している具体的な事象を通して、生徒に周知していくことが大切だ。情報の安全性やリスク回避の方法を親子間で共有しておくことも必要と感じる。</p> <p>○文化祭を見学させていただいたが、生徒たちも楽しそうに活動していたと感じた。</p>	<p>①本校では教育相談コーディネーターとスクールカウンセラーの連携が進んでおり、生徒のセーフティネットとしての機能が充実している。一方、SNSによる指導事案が増加している傾向がある。</p> <p>②部活動においては、多くの生徒が主体的に参加しており、生徒の自己実現に大きく貢献できていると考える。さらに学習との両立を進めていきたい。</p>	<p>①SNSの問題については、様々な場面を通して注意喚起を行うとともに、外部講師による携帯電話教室などを活用して、課題解消の取組を進める。</p> <p>②部活動アンケートについて、活動の満足度に「どちらともいえない」と答えた生徒の理由を分析し、よりよい活動の在り方を検討する。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>①変化の早い社会、進路情報へ適切な対応ができる組織体制の整備をし、生徒が将来を積極的に開拓し、実現につなげる能力を育む。</p> <p>②生徒が自ら「情報収集・選択・提供」を積極的に行い、継続的に「チーム西湘」としての進路意識を高めていく。</p>	<p>①生徒のキャリア形成に資する進路行事・情報共有方法の組織化を図り、生徒・教員の進路開拓意欲を高める取組を進める。</p> <p>②組織的な出願指導に重要な情報の蓄積・共有方法の整理を行い、適切な情報提供を迅速にできる体制づくりを行う。</p>	<p>①LHR、オンラインを使った講演会、説明会などの開催とスピード感のある情報共有をする。</p> <p>②生徒・保護者・教員間での進路情報の様々な共有方法を組織的な確立を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に進路選択をし、納得できる選択をすることができたか。</p> <p>②情報へのアクセス回数、進路相談の件数を増やすことができたか。</p>	<p>①昨年度と比較して、対面での講演会等を行うことができ、タイミング良く状況に応じた情報の提供、動機づけによって生徒が主体的に進路選択できた。</p> <p>②出願指導に必要なソフトの利用方法、進路情報共有などの確立をすることができた。</p>	<p>①各学年での進路ガイダンス等の実施計画を対面を前提としたものに再構築し、様々な状況を見据えた進路相談・情報提供体制を構築する。</p> <p>②学校研究・入試方式の研究を継続的に行い、生徒の志望にあった情報提供、共有を行う。生徒・保護者からの相談を学年で共有し、回答内容の共有を迅速に行う。</p>	<p>○多様化している進路選択において、丁寧な対応をいただいたと感じる。</p> <p>○1年生対象のキャリア教育講演会に同窓生を講師とした講演を行い効果があったように思う。今後も同窓会として新たな人材を発掘していくので同窓生を活用していただくとありがたい。</p>	<p>①進路の最新情報について積極的に情報収集に努め、ICTを活用して生徒・職員に迅速に提供できた。情報を受け取るだけでなく、主体的に分析できる力をつけたい。</p> <p>②コロナ禍の回復が進み、ガイダンス活動等を正常に実施できるようになってきた。ICTソフトの活用については、さらに研究が必要である。</p>	<p>①キャリア教育は主体的に進路を選択することができる力が重要である。HR活動等を通して、さらなる充実を図る。</p> <p>②生徒が主体的に情報にアクセスし、選択・判断できる教育環境の充実を推進する。</p>
4 地域等との協働	<p>①非常時に対応できる体制作りを推進し、地域と協働した防災活動に取り組む。</p> <p>②PTAや近隣の学校等との交流・連携事業を行い、地域の教育力を活用する。</p>	<p>①地域と連携し、災害発生時の初動対応についての意識を高める。</p> <p>②PTAと協力し、学校との連携を深めるとともに、生徒とPTAとの交流を推進する。</p>	<p>①生徒が主体的に活動する防災訓練や啓発運動を実施する。</p> <p>②講演会や研修会を開催し、保護者への参加を呼び掛ける。</p>	<p>①防災訓練、啓発運動等を通して、生徒が正しい初動行動をとることができたか。</p> <p>②講演会等に保護者が参加し、生徒との交流を深めることができたか。</p>	<p>①防災訓練を2度実施した。防災委員が研修で体験した内容を集会で伝える意識を高めることができた。</p> <p>②外部講師を招いて進路講演会を開催した。保護者と情報を共有し、生徒の進路実現に役立てることができた。</p>	<p>①屋外での訓練を計画し、実践的な訓練を行う。また近隣の住民に参加していただく機会を設ける。</p> <p>②不参加の保護者に対してマチコミなどを活用して内容を配信する。また各PTA活動の振り返りをもとに講演会や研修会を企画する。</p>	<p>○学校安全総合支援事業に関する取組資料が大変参考になった。高校の防災意識、訓練などをもっと自治会全体にアピールし、地域にも役立つよう考えている。</p> <p>○防災訓練などを地元自治会等と合同でできるとよい。</p> <p>○PTAは学年委員会の進路講演会で協力させて頂いている。オンラインと同時に会場にも来てもらい、さらに大きく開催して欲しい。</p>	<p>①校内防災訓練や、防災委員による神奈川県総合防災センター訪問研修等を実施することができたが、コロナ禍によりここ数年地域と連携した防災訓練ができない状況が続いている。</p> <p>②本校PTAは大変協力的で、体育祭・文化祭をはじめとする学校行事やキャリア教育の場面で、様々な支援をいただいている。</p>	<p>①コロナ禍の回復を待ち、次年度は積極的に地域と連携した防災訓練を行い、ここ数年途絶えていた活動を再開する。</p> <p>②生徒の教育活動をさらに充実させるため、引き続きPTAと連携を深めていく。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①生徒と向き合う時間を潤沢にするため、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①グループ業務の見直しによる業務改善を図る。</p>	<p>①グループや学年等を中心に業務の見直しを推進し、業務量の削減を図る。</p>	<p>①年度末の企画会議において、業務の見直しが推進できたか確認する。</p>	<p>①次年度に向けて、グループ業務分担の見直しを行った。正・副担当制を徹底して事故防止と業務引継ぎの円滑化を図るとともに、グループリーダー業務の精選を図るなど、見直しを推進することができた。</p>	<p>①次年度においても業務見直しの取組を継続し、事故防止と働き方改革の推進の両面に取り組む。</p>	<p>○学校運営において継続したほうが良い業務なのか、形態を変えていく必要があるのか、コロナ禍により見えてきた部分もある。今後も働き方改革を含めて改善を望む。</p> <p>○一般会社でもそうだが、働き方改革など重要な事項を教職員一人一人が事後的追認をせず、業務改善のアイデアを出して、基本方針に反映させることが重要と考える。</p>	<p>①ICTの活用を推進し、業務の効率化を進めることができた。コロナ禍を経験し、業務の課題等も見えてきたが、未整理な部分がある。</p>	<p>①ICTの活用をさらに推進するとともに、本年度に引き続き校内組織の在り方等の見直しを図りながら、「働き方改革」を踏まえた取組を推進する。風通しの良い、同僚性に裏付けられた職場環境を醸成し、事故・不祥事防止に努める。</p>